

企画展「田んぼ」の収穫

博物館資料調査・活用担当 学芸員 戸邊優美

埼玉県には、地形に即した様々な田んぼが展開してきました。丘陵地や台地は水利に不便な反面、その周縁は湧水が豊かであることから、用水路整備以前より天水田が作られてきました。県東南部の低湿地帯では、沼地を改修した掘上田や、稲作田より深い蓮田や慈姑田の耕作が行われてきました。また、水田に不向きな地域では、畑で陸稲を育てたり、斜面に棚田を形成したりしました。地域性に富んだ魅力あふれる田んぼに注目すべく、1,640点の農具コレクション「北武蔵の農具」(当館所蔵/国指定重要有形民俗文化財)を手掛かりに、企画展「田んぼ一埼玉、人と水の風景一」(平成30年3月17日~5月6日)を開催いたしました。

展示は、資料総数125点から成り、県内の田んぼ史に触れる「田んぼ昔々」、北武蔵の農具で生業暦をたどる「稲作の1年」、各地の田んぼと耕作技術を紹介する「埼玉の田んぼ・あちらこちら」、野良着や田んぼの信仰などを見つめる「田んぼと暮らす」の4章で構成されました。稲作のプロも未経験者も楽しめる展示を目指して四苦八苦したのですが、展示で説明しつくせないところは、民俗芸能公演「日進の餅搗き踊り」や民俗工芸実演「加須のわら細工」などのイベントで感じていただくことにしました。また、子供向けにワークシートも用意しました。小さなお子様には少し難しかったようですが、子供さんが一生懸命展示ケースを覗きこむ姿を見て、ほんと安堵しました。本企画展は、農具ではなく田んぼを主題とした新しい試みの展示でしたが、最終日までに4,415人のお客様にお出でいただきました。

課題もありましたが、担当者としては多くの収穫を得ることができました。例えば、田んぼ展に向け、セミプロ含む大勢の現役農家さんを取材させていただきました。機械化が進んだ現在の稲作は、全てが手作業だった頃に比べると格段に効率的かつ合理的ではありますが、人海戦術は今も必要ですし、作業の創意工夫はますます面白くなっていると思います。ある農家さんは、除草剤散布作業について市販の農機具では満足できず、知り合いに作ってもらった「除草剤散布用ボート」を使用していました。この手作り農機具をお借りして展示したところ、農業に詳しくない人から農具研究者まで、好評をいただきました。システムチックに見える機械化農業と農機具から、農家さんの熱い思いと工夫を感じ取られたのだと思います。残念ながら、田んぼ展に図録はありませんが、「除草剤散布用ボート」を使用する様子は、当館ホームページ「スタッフブログ」平成29年6月27日で見ることができます。ぜひもう一度、田んぼ展の足跡を御覧になってみて下さい。

今後のイベントスケジュール

* 申込は『JUNO』に応募要項が掲載されてからお願いします。

ホームページ: <http://junosaitama.net/> ブログ: <http://hakutomobulog.at.webry.info/>

- | | | |
|-------------|--------------------------------|---------|
| ○9月12日 (水) | 友の会主催見学会 藤沢・横浜方面 | <前号で紹介> |
| ○9月29日 (土) | 古道探索倶楽部 第25回 南与野駅集合 (募集中) | <前号で紹介> |
| ○10月5日 (金) | まち歩き研究会 松戸市博物館と21世紀の森と広場 (募集中) | <前号で紹介> |
| ○10月21日 (日) | 友の会主催見学会 かみつけの里古墳祭りとお観音塚古墳 | <今号で紹介> |
| ○11月17日 (土) | 友の会主催講演会 古代日本の超技術 | <次号で紹介> |

国宝「正福寺地蔵堂」見学会レポート

2018 (平成30) 年8月8日に開催

わが埼玉県には国の重文に指定された中世三間仏堂が三棟遺されています。さらに江戸期以前の分国「武蔵」という領域で見ると東村山市には国宝指定の「正福寺地蔵堂」があります。

友の会では平成19年に川島町「広徳寺大御堂」平成24年に飯能市「福德寺阿弥陀堂」平成28年に入間市「高倉寺観音堂」の見学会を行いました。今回はその集大成ともいえる「正福寺地蔵堂」見学を堂内が公開される8月8日の施餓鬼供養に合わせて企画しました。当初40人以上の参加申込でしたが、台風接近により状況次第で内部公開中止になるとの前日情報を流した結果、27名の参加にとどまりました。当日はかなりの荒れ模様で午後一時に公開中止、行程を繰上げて早目に訪問した結果何とか堂内部も見学出来ました。



山門からの地蔵堂遠景



地蔵堂内部の様子

現地訪問に先立ち「東村山ふるさと歴史館」で1時間ほど、地蔵堂の模型を前に、正福寺と禅宗寺院についての歴史背景・建築物としての特色・堂内に奉納されている千体地蔵の信仰などについて解説を受けました。

現地では風雨に遮られ思うように動けませんでした。歴史館で得た基礎知識のおかげで効率よく鑑賞できたと思います。唯、何も知らないでも、このお堂の前に立てば、611年前の遺産(1407年建立)が目に見えるかたち、手に触れられるかたちで存在しているということだけで、十分に感動できるのではないのでしょうか。

正福寺は現在も広大な寺域を持っています。創建当時の伽藍配置は全く不明で、江戸中期以降の資料しか残っていないとの事でした。もし鎌倉五山を模した七堂伽藍がこの境内に建てられていたなら、さぞかし壮大な景観だったろうと思われます。

堂内には、三百年來、近隣の信徒がそれぞれの願いを込めて納めた小地蔵仏が並び、現代もまた形を変えて奉納は続いているようです。正福寺地蔵堂には鎌倉時代以来の歴史と文化が積み重なり、また未来へも繋がっていくのだと感じました。(詳しくは友の会ブログに掲載 中村均 記)

(追記) 地蔵堂の床は土間で水に弱く公開の障害になっています。今回は手塚理事が靴カバー用にシャワーキャップを用意、全員装着して入場した為床を濡らさないで見学出来ました。誌上を借りてご配慮に感謝いたします。なお9月24日と11月3日にも堂内は公開されます。今回中止された方もぜひ拝観されることをお勧めします。

「友の会ホームページ」からの申込について

友の会ホームページの「送信フォーム」から見学会などへの申込ができます(右のマークがある場合)。パソコンはもちろんスマホの画面からでも送信できます。返信はしませんが、ホームページ内の[最新のお知らせ]で参加状況やイベントの開催状況などについての情報を出す予定です。



投稿 国宝土偶 環状列石…縄文時代にどっぷり 北海道の旅

会員 砂崎則文 (さいたま市)

縄文時代の国宝土偶、環状列石、そして洞窟内の線刻壁画…。こんな旅行案内の文句に惹かれてこのほど、「北海道古代の旅」に参加した。千歳、小樽、函館など巡った道南の遺跡は、津軽海峡をはさんだ北東北地方の遺跡群とともに世界遺産の認定を目指している。列島北端で何千年も前に、心豊かな暮らしをしていた古代人の世界を垣間見た旅だった。

1日目。この旅行を企画したK社の募集に参集したのは20人。新千歳に着いて最初の見学地は国史跡の「キウス周堤墓群」(千歳)。直径50mを超える、丸い、高さ2mほどの土塁の上を一周する。縄文中後期の共同墓地だという。盛り土は2トトラック約600台分とか。

2日目。日本海を望む余市の「フゴッペ洞窟」に。洞窟は奥行、高さ5mほど。縄文海進で舌状台地の一部が削られて出来たという。壁面には200点を超える線刻画が広がっていた。次に訪ねた「手宮洞窟」(小樽)の線刻壁画も描かれたのは北海道の続縄文時代。絵柄は魚、舟、人など多彩だが、その中で注目されるのが角や羽の生えた人、祭祀を司るシャーマンらしい。よく似た絵柄がシベリア・アムール川流域の遺跡からも見つかっている。古代の国際交流の一場面だろうか。この旅のもう一つのお目当てであるストーンサークル「西崎山環状列石」(余市)を見学。洞窟遺跡にほど近い丘陵に、長径17m、短径12mの楕円形状に自然石が並ぶ。サークル内は数百個もの列石で埋められ、出土した土器や石鏃から縄文後期につくられたことが分かっている。縄文人が何のためにつくったのか、その定説はなく共同墓地、むらの司祭場、天文観察などの説があり、その謎は深い。この後、見学した「忍路環状列石」(小樽)はもう一回り大きく南北33m、東西22mの楕円形。今はパワースポットとして人気があるそうだ。

3日目。札幌を南下して噴火湾周辺の日本でも有数の貝塚密集地帯へ。同湾東岸の「北黄金貝塚」(伊達)は縄文前期から約2千数百年にわたり縄文人が暮らした痕跡がある貝塚。ハマグリ、カキ、マグロ、ヒラメのほかオットセイ、アシカなど海獣の骨も発掘されている。人骨14体も丁寧に埋葬されており、単なる廃棄場ではなく神聖なモノ送りの場だったことが伺えるという。同湾西岸にある「大船遺跡」(函館)もほぼ同じ年代の大規模貝塚で、とくに注目されているのが深さ2mもある竪穴住居。豊富な食料を蓄える貯蔵庫を兼ねていたのだろうか。

4日目。この旅のハイライトは国宝「中空土偶」。北海道唯一の国宝でもある(右図)。函館・著保内地区の縄文時代後期の集団墓の一角で見つかった。身長41.5cmで国内最大級。当時の衣装と思われる精巧な文様がくっきりほどこされるなど土偶造形の到達点、そして縄文人の信仰や祭祀の実態など精神文化を明らかにする貴重な資料となっている。いつもは函館市縄文文化交流センターに保管展示されているが、東京国立博物館の特別展「縄文—1万年の美の鼓動」(7/3~9/2)に国宝土偶五体の一つとして展示され、思わぬ再会の機会に恵まれた。(同人誌「萃点」より抜粋転載)



函館市提供

『JUNO』にエッセイや旅行記・書評などの原稿を送ってください。

◎友の会の機関誌『JUNO』で広く会員の皆様の原稿を募集します。内容は自由ですが、友の会や博物館活動に関連したもので、400~800文字程度。編集委員会で検討の上、誌面に掲載します。内容・テーマにより巻頭エッセイへの掲載をお願いする場合があります。送り先は「博物館内 友の会」あて郵送。またはEメールで pu8n-tki@asahi-net.or.jp まで。

ロマンあふれる古代群馬へ！ 一面コスモスのなかで行う

かみつけの里古墳祭りと

巨石巨室の観音塚古墳を訪ねる

◎今回の見学会は、日本の祭り研究クラブとの合同企画です。

今から1500年前(5世紀後半)榛名山東南麓は、有力な王によって治められていました。しかし、6世紀初めに起きた榛名山大噴火で被災し、当時の生活は大きな影響を受ける。この地域では、王の館(三ツ寺I遺跡)、王の墓(保渡田古墳群)やムラ・耕作地など、当時の暮らしぶりが再現できる遺跡が多くあります。

『ロマンあふれる東国文化・・・古代群馬へ感動とあでやかな風景を求め！』

秋空の下、一面コスモスなかで繰り広げられる再現劇「王の儀式」は、考古学の研究成果を基に創作されています。

秋空のもと、満開のコスモス畑を散歩し、古代ロマンを感じる一日を！

又、**観音塚古墳**は6世紀末頃の築造とされ、群馬県域では最後の前方後円墳と考えられています。特に注目されるのは、石室を構築する自然石の巨大さです。最大重量55トンにも達し、見るものを圧倒する巨石構造は「**群馬の石舞台**」。石室は昭和20年3月に防空壕に利用目的で開口、沢山の出土品が発見30種類300余点あり、当時の最高級品が納められていました。

- ◆ **日 時** 平成30年10月21日(日) 雨天決行
- ◇ **集合時刻** 午前8時(時間厳守) :帰着予定 午後6時
- ◆ **集合場所** JR大宮駅西口・大宮ソニックビル西側
- ◇ **参加費用** 6,000円(バス代・資料費等含む)

※ 昼食はご持参願います。尚、祭り会場で無料すいとん・弁当販売あり

★ 往復はがきに見学会名・住所・氏名・会員番号・ご連絡先(できれば携帯)を明記の上、〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219

埼玉県立歴史と民俗の博物館 友の会 宛 お送りください。

★ 締切 10月5日(金)必着 ★募集定員 45名(満員次第締切)

※10月5日以降着信のご返事は電話でご連絡いたします。

★ 会員限定ですが、ご家族(小学5年～中学3年は料金半額で可)友人は同伴できます。
尚、座席希望あれば明記の事

★ 見学会に関するお問い合わせと当日緊急連絡先(090-2404-9553 中村均)